

観光／専門科目

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
112BK01		観光学概論 A		観光学入門	高柳 直弥	1 年次前期	2
科目区分	専 門	キーワード		ニューツーリズム、産業観光、観光立国			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			特になし				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	人が国境を越えて自由に移動することは、政治的・経済的・文化的に様々な影響を及ぼすため、日本をはじめとする各国においても外国人の来訪を促進しています。本講義では、観光と文化・社会との関わり、並びに現在の観光産業が直面する諸問題を考察していきます。						
到達目標	観光・旅行業、関連産業に進む予定の学生の基礎教養を養う。具体的には、現代観光の動向を把握し、観光形態や旅行者、生活者の意識の変化について理解し、説明できるようになる。						
講義内容	観光は、21 世紀の基幹産業といわれています。本講義では、歴史・理論・政策等の視点から観光に迫ります。特に観光に関する基礎理解を深め、将来の仕事に活かせるよう配慮します。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	観光を学ぶとは（1）			オリエンテーションと観光の定義		
	第 2 講	観光を学ぶとは（2）			観光資源・観光施設・観光媒体		
	第 3 講	観光を学ぶとは（3）			旅の形式		
	第 4 講	旅と観光の歴史（1）			近代の日本の観光		
	第 5 講	旅と観光の歴史（2）			戦後の日本の観光		
	第 6 講	旅と観光の歴史（3）			世界の観光の歴史		
	第 7 講	観光と政策（1）			観光に関する日本の政策		
	第 8 講	観光と政策（2）			観光立国とは		
	第 9 講	観光と文化			観光における多文化理解		
	第10講	観光と航空業界（1）			航空業界の概要と観光における役割		
	第11講	観光と航空業界（2）			航空業のマネジメント		
	第12講	観光と鉄道（1）			観光における鉄道の役割とは		
	第13講	観光と鉄道（2）			鉄道事業の経営について		
	第14講	観光と宿泊業（1）			ホテルの歴史と機能		
	第15講	観光と宿泊業（2）			宿泊業に関連する法整備		
指導方法		観光を体系的に把握、理解します。副次的に新聞やテレビ番組等よりトピックを取り上げて、観光と経済の関連と、その波及効果について解説し、理解を深めます。なお、受講生の人数や関心、理解度に応じて計画を若干変更する場合があります。積極的に学ぶ意欲のある人を歓迎します。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		【平常点】（小テスト：50%、授業内課題：10%）、【本試験】（レポート）：40%。					
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法			授業の冒頭で解説をする。				
テキスト		中島智・高柳直弥・片山明久編著『現代の観光を学ぶ―地域創生に向けて―（第 2 版）』八千代出版 2025 年、ISBN 978-4-8429-1884-6					
参考文献		高柳 直弥・太田 実・中島 智編『新時代の観光を学ぶ』八千代出版、2019 年					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項		小テストは合計 3 回実施予定です					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
122BK02		観光学概論 B		地域観光および観光事業の経営を学ぶ	高柳 直弥	1 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		観光マーケティング、旅行業、サービス業、DMO			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			観光学概論 A				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	本講義では、従来の観光産業や地域観光の経営に対する考え方や手法の課題を具体的な事例を示しながら整理し、今後求められることが予想される経営姿勢などを考察し、指導する。						
	地域観光や観光関連産業の経営について、観光マーケティングや経営の理論から考えることができるようになる。						
講義内容	観光関連産業の経営や地域観光のあり方を考察し、観光産業や観光マネジメントについて、マーケティングや経営学の知見から理解することを目指します。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	観光を学ぶ上での基礎（1）			オリエンテーションと観光を学ぶ上での基礎知識		
	第 2 講	観光を学ぶ上での基礎（2）			観光関連産業の基礎知識		
	第 3 講	旅行業（1）			旅行業の概要		
	第 4 講	旅行業（2）			旅行商品の種類		
	第 5 講	旅行業（3）			旅行業の存在意義		
	第 6 講	観光マーケティング（1）			環境分析		
	第 7 講	観光マーケティング（2）			ターゲティングとポジショニング		
	第 8 講	観光マーケティング（3）			観光とマーケティングミックス		
	第 9 講	その他の観光関連産業（1）			テーマパーク		
	第10講	その他の観光関連産業（2）			博物館		
	第11講	産業観光			産業観光の分類と意義		
	第12講	観光関連産業と経営（1）			サービス業としての観光関連事業		
	第13講	観光関連産業と経営（2）			地域観光事業のマネジメント		
	第14講	観光関連産業と経営（3）			消費者行動と観光		
第15講	観光関連産業と経営（4）			観光におけるプロモーション活動			
指導方法		観光を体系的に把握、理解します。副次的に新聞やテレビ番組等よりトピックを取り上げて、観光と経済の関連と、その波及効果について解説し、理解を深めます。なお、受講生の人数や関心、理解度に応じて計画を若干変更する場合があります。積極的に学ぶ意欲のある人を歓迎します。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		【平常点】（小テスト：50%、授業内課題：10%）、【本試験】（レポート）：40%。					
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法			授業の冒頭で解説をする。				
テキスト		中島智・高柳直弥・片山明久編著『現代の観光を学ぶ―地域創生に向けて―（第2版）』八千代出版 2025 年、ISBN 978-4-8429-1884-6					
参考文献		高柳 直弥・太田 実・中島 智編『新時代の観光を学ぶ』八千代出版、2019 年					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項		小テストは合計 3 回実施予定です					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
142BK03		観光関係法規(前集)		旅行業法令と旅行業約款	手塚 郁子	1 年次前期	4
科目区分	専 門	キーワード		旅行業法令・旅行業法施行令・旅行業法施行規則・標準旅行業約款			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			特になし				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	旅行業法や旅行業約款を学び、その内容を理解することは、観光・交通関係の仕事に携わる上で、旅行の快活かつ円滑な実施はもとより顧客とのトラブル防止につながります。同時に自身が旅行をする場合の、消費者としての立場からもある程度は有益になるものと考えられます。そしてこれらの学習は、国家資格である旅行業務取扱管理者試験の合格にもつながります。以上のことを踏まえ、観光関係の規則の解釈と、それに則った正しいご案内ができるようになることを目的とします。						
	到達目標						
国家資格である旅行業務取扱管理者試験の合格を目標に定めます。国内旅行業務取扱管理者試験だけでなく、1 ランク上の総合旅行業務取扱管理者試験の 1.旅行業法令と 2.約款の科目の試験対策としても、ほぼカバーすることができます。							
講義内容							
講義の目的に鑑み、国家試験の試験範囲 2 科目（1.旅行業法令 2.約款）の学習を行います。問題を紐解くために必要な標準旅行業約款や旅行業法令・規則の条文の内容について実例を交えて易しく解説し、テキストを中心に出現率の高い問題を解きながら理解を深めます。講義が中心の授業になりますが、問題を解く時間などを利用して、理解しにくかった箇所などを積極的に質問して確認してください。							
講義スケジュール		タイトル		内容			
	第 1 講	ガイダンス・国家試験の概要		科目ガイダンス 旅行業務取扱管理者試験の概要と意義			
	第 2 講	募集型企画旅行契約 ①		標準旅行業約款の学習方法 旅行業約款の種類 募集型企画旅行契約の部 適用範囲と定義			
	第 3 講	募集型企画旅行契約 ②		契約の内容、手配代行者、契約の申込みと予約			
	第 4 講	募集型企画旅行契約 ③		契約締結の拒否と契約の成立時期			
	第 5 講	募集型企画旅行契約 ④		契約書面と確定書面			
	第 6 講	募集型企画旅行契約 ⑤		契約の変更			
	第 7 講	募集型企画旅行契約 ⑥		旅行者からの契約解除			
	第 8 講	募集型企画旅行契約 ⑦		旅行者からの契約解除			
	第 9 講	募集型企画旅行契約 ⑧		団体グループ契約と旅程管理			
	第10講	募集型企画旅行契約 ⑨		責任			
	第11講	募集型企画旅行契約 ⑩		旅程保証			
	第12講	受注型企画旅行契約 ①		定義～契約の締結			
	第13講	受注型企画旅行契約 ②		契約の変更と解除			
	第14講	受注型企画旅行契約 ③		団体グループの取扱いと旅程管理、責任			
	第15講	特別補償規程①		補償金等			
	第16講	特別補償規程②		損害補償金			
	第17講	手配旅行契約の部①		契約の変更及び解除			
	第18講	手配旅行契約の部②		旅行代金～責任			
	第19講	旅行相談業務		旅行相談業務、旅行業約款の整理と復習			
	第20講	旅行業法令 総則		旅行業法の目的と定義			
	第21講	登録制度		登録の申請 登録の基準 有効期間と更新登録 変更登録			
	第22講	営業保証金制度		営業保証金制度の概要 営業保証金の供託			
	第23講	旅行業務取扱管理者		旅行業務取扱管理者の選任と職務			
	第24講	取引公正の確保措置①		料金と標識の掲示 旅行業約款			
	第25講	取引公正の確保措置②		取引条件の説明 契約締結時の書面の交付			
	第26講	取引公正の確保措置③		外務員の証明書携帯 広告についての規制			
	第27講	企画旅行の旅程管理		企画旅行における旅程管理業務			
	第28講	禁止行為		禁止行為等・行政処分・雑則・罰則			
	第29講	旅行サービス手配業		旅行サービス手配業について			
	第30講	旅行業協会		旅行業協会の業務			

指導方法	テキストを中心に講義形式で行います。条文を解説した後に演習問題を解くことを繰り返し、理解の確認をしていきます。内容量も多く前後が関連するため、途中で欠席したり、集中力が欠けますと理解が難しくなります。欠席しないよう心がけてください。テーマごとに小テストを実施します。		
事前学習	各回のテキストページを一読しておく、授業時に理解しやすくなります。前回の事後学習をして、ポイントを押さえておくことが事前学習になります。1時間30分程度の学習時間が目安です。		
事後学習	毎回学んだ授業内容を整理してポイントとなる点について少しずつ覚えていく必要があります。該当する内容の過去問題も必ず解く必要があります。1時間30分程度の学習時間が目安です。		
成績評価方法	「本試験（筆記試験）」(50%)、「平常点（授業内小テスト）」(50%) 小テストについての追試験や再試験はありませんので注意してください。小テスト実施日は必ず事前に連絡します。		
課題(試験・レポート)に対する フィードバックの方法	小テストは、次の授業時に返却して復習を実施します。		
テキスト	『観光関係法規 1 旅行業法令』『観光関係法規 2 約款』オリジナルテキストが2冊必要です。		
参考文献			
実務家教員による授業		教員 経歴	
特記事項			

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
112BK04		旅行実務論		旅行実務における JR 運賃料金計算 基礎力の養成	手塚 郁子	1 年次前期	2
科目区分	専 門	キーワード		JR 旅客営業規則・運賃計算法・運賃計算の特例・料金の種類と計算法			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			特になし				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	J R 旅客営業規則に従った基本的なルールや、複雑な運賃料金の計算方法を学び、国内の鉄道旅行において必要となる「運賃・料金」の正しい見積書を打ち出すことが出来るように学習します。また、当該科目の学習は、国家資格である国内旅行業務取扱管理者試験における「国内旅行実務」科目の出題範囲であり、合格のための一助となります。						
到達目標	国家試験に出題されるレベルの、基本的な J R 運賃料金計算ができるようになることを目標に定めて、旅行業務取扱管理者試験合格を目指します。したがって、試験範囲をカバーするよう進みますから、高校までに学習した基本的な計算や言葉の理解ができていないと厳しいこともあります。						
講義内容	JR の営業規則に則った運賃料金計算法を学習します。J R の旅客営業規則はとても複雑ですから、個々のルールをしっかりと覚え、面倒がらずに丁寧に計算式をたてて積み重ねていかないと一つの問題を解くことができません。例題を解きながら解説をしていますが、僅かでも気を抜いたり省略したりすると正解にたどり着くことができません。そのため欠席はもちろん、出席していてもぼんやりして大事なことを聞き逃すと理解が難しくなります。ノートに書き写しているだけでは厳しく、1 回ごとに理解していかななくてはなりません。その覚悟をもったうえで臨んでください。						
講義スケジュール		タイトル		内容			
	第 1 講	授業概要		授業内容と注意事項 基礎力確認			
	第 2 講	JR 運賃計算の原則 (1)		JR 旅客営業規則 運賃と料金の違い・旅客の区分			
	第 3 講	JR 運賃計算の原則 (2)		JR 旅客営業規則 幹線と地方交通線 運賃の算出法			
	第 4 講	JR 運賃計算の原則 (3)		JR 旅客営業規則 キロ数の通算と打ち切り			
	第 5 講	JR 運賃計算の原則 (4)		JR 旅客営業規則 四国・九州・北海道またがり運賃 連絡運輸			
	第 6 講	JR 運賃計算の特例 (1)		特定都区市内・山手線内の特例 (運賃小テスト①予定)			
	第 7 講	JR 運賃計算の特例 (2)		特定区間・大都市近郊区間			
	第 8 講	JR 運賃計算の特例 (3)		新幹線と並行在来線、区間外乗車			
	第 9 講	JR 乗車券に関する実務		有効期間と途中下車			
	第10講	割引運賃		割引運賃の種類と計算法			
	第11講	JR 料金の概要		JR 料金の種類 (運賃小テスト②予定)			
	第12講	JR 料金 (特急料金区分)		特急料金について			
	第13講	JR 料金 (新幹線内乗継)		新幹線特急料金・新幹線内乗継			
	第14講	注意が必要な料金計算		在来線特急料金・特別車両料金・寝台料金 そのほかの料金			
	第15講	本試験に向けて		ここまでの復習			
指導方法		限られた時間内で国家試験の範囲を学習するため、例題を解きながら解説していく講義が中心になります。運賃計算は、一つ一つの理解ができていないと正解に結び付かないため、理解できなかった箇所は必ず質問をして 1 回ごとに解決していくように心がけてください。					
事前学習		複雑なルールが学習ごとに増えますので、必ずそれまでの規則を確認して覚えてください。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。					
事後学習		細かいルールを整理して必ず覚えることです。ルールを忘れるとミスを起こします。面倒な計算式も必ず記入して繰り返し問題を解くことがとても重要です。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。					
成績評価方法		「本試験（筆記試験）」(50%)、「平常点（授業内小テスト 2 回の予定）」(50%) 授業内小テストの実施日は、授業進行状況やそのほかの状況によって変更します。必ず事前に実施日を連絡します。小テストについての追試験や、再試験はありませんので注意してください。					
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法		小テスト実施後、次週の授業時に返却します。					
テキスト		『旅客営業実務』 豊昭学園オリジナルテキスト					
参考文献		『J R 時刻表』(大型 2025 年 4 月号)					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項		計算機能のみ（スマートフォンなどは不可）の計算機を各自、用意してください。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BK05		観光プランニング実践		JR 時刻表検索と運賃料金計算のエキスパートを目指して	手塚 郁子	2 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード	JR 時刻表の活用・JR 旅客営業規則・運賃計算の特例・料金計算の注意点				
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			旅行実務論（受講していない場合は理解が厳しいです）				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	時刻表の巻末にある JR の営業案内（ピンクページ）についての適用ルールを習得するとともに、時刻表から鉄道旅行ルートを作成することにより、時刻表を読み込む力、使いこなす力を養います。主に鉄道旅行のプランにおける J R 旅客営業規則に基づいた正しい運賃料金計算と、その根拠となる説明ができる能力を身につけることが目的です。						
到達目標	JR を中心とする営業規則に則った運賃計算方法を習得し、それらを踏まえたうえで応用力を身につけます。さまざまな条件に基づいて算出される運賃について、その正しい説明ができるようになることを目標とします。						
講義内容	鉄道旅行を中心とした「旅行プラン作成」のために、規則に則った正しい運賃計算方法の学習をします。さまざまな特例を復習しながら、鉄道旅行のルートや日程に基づいた適切な計算方法を考えます。そのうえで運賃を算出するために必要な距離を時刻表から割り出していきます。これらの過程やその根拠など必要事項を書き出し、それらに基づいた計算式をたてた上で算出された運賃料金計算の課題を毎回提出します。講義よりも課題実践演習の時間が主になります。講義スケジュールの順序は、理解度やその他の状況により入れ替わることがあります。						
講義スケジュール		タイトル	内容				
	第 1 講	授業概要	授業内容ならびに履修のための注意事項等の説明				
	第 2 講	1 年次「旅行実務論」復習	1 年次に学習した「旅行実務論」の全体概要と復習				
	第 3 講	運賃計算の基本	運賃計算の基本的ルール（旅客営業規則）				
	第 4 講	時刻表の使い方と活用法	時刻表の引き方・利用法の確認と実践・距離の割り出し				
	第 5 講	さまざまな運賃表	さまざまな運賃表による運賃計算				
	第 6 講	運賃計算の特例（1）	新幹線と並行在来線の特例				
	第 7 講	運賃計算の特例（2）	特定都区市内の特例				
	第 8 講	運賃計算の特例（3）	大都市近郊区間・特定都区市内の特例				
	第 9 講	運賃計算の特例（4）	経路特定区間の特例				
	第10講	運賃計算の特例（5）	区間外乗車の特例				
	第11講	プランニング演習（1）	プランニング課題作成条件提示と注意事項（プラン構想）				
	第12講	プランニング演習（2）	（構想をもとに具体的なプラン設計）				
	第13講	プランニング演習（3）	（設計したプランの距離割り出しと計算方法の熟考）				
	第14講	プランニング演習（4）	（プラン全体の見積作成）				
第15講	プランニング最終提出日	（プランと見積書の点検）本試験における注意事項					
指導方法		全体講義は運賃計算の特例を中心に行います。その後時刻表を使ってキロ数を割り出し、条件や行程に合わせた運賃料金計算の演習課題を行い、毎回提出し積み重ねていきます。演習時間を利用して個別に質疑応答に対応します。毎授業時の提出物は合格するまで再度提出が必要です。					
事前学習		1 年次前期に学んだ J R 運賃料金の計算方法を確認することです。わからないことや忘れてしまった質問事項を用意しておくことです。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。					
事後学習		授業内で学習したこととその日の課題や前回の課題について、時刻表と照合しながら確認を行い、その知識を定着させることが必要です。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。					
成績評価方法		「本試験（筆記試験）」(50%)、「平常点（授業内課題）」(0～30%)、「平常点（プランニング課題）」(20～30%)ただし、授業内課題が合格にならないとプランニング課題の提出はできません。プランニング課題未提出の者は評価の対象外となります。					
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法			課題は、次週の授業時に返却します。指導方法欄を参照してください。				
テキスト		『JR 時刻表』（大型 2025 年 10 月号）授業内はもちろん、定期試験も時刻表持込必須のため必ず購入してください。					
参考文献		1 年次の旅行実務論テキスト『旅客営業実務』					
実務家教員による授業		教 員 経 歴					
特記事項		1 年次前期の「旅行実務論」の応用編なので、「旅行実務論」を履修しておく必要があります。					

ナンバリング		科目名		サブタイトル		担当教員		配当年学期		単位数	
112BK06		観光文化資源論		国家試験合格を目指して		手塚 郁子		1 年次前期		2	
科目区分		専 門		キーワード		観光文化・観光地理・名所旧跡・民俗伝統芸能・郷土特産物					
ディプロマポリシーとの対応				2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力							
カリキュラムポリシーとの対応				1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける							
事前に受講するとよい科目				特になし							
オフィスアワー				授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。							
教員への連絡方法				教員の短大メールアドレス							
講義の目的		全国の観光名所について知るだけではなく、それぞれの地域の自然的特性やその背景にある歴史、そこから生み出された文化を全般的に学びます。それらによって、各地のさまざまな人々との相互理解やコミュニケーション能力の一助になることを目的とします。									
到達目標		国内旅行業務取扱管理者試験の合格を目標とします。したがって出題範囲となる文化資源を覚えなければなりません。当該試験に合格するためには、『国内旅行実務』の学習が特に重要な項目として位置づけられています。中でも観光地の内容に関することは、幅広く多岐にわたって出題されるために、要領よく早くから覚えらえるように対策しておくことが必要です。									
講義内容		旅行業務取扱管理者試験の科目「旅行実務・旅行業務の取扱いに関する実務処理」に出題される観光資源について、47 都道府県に亘り幅広く学習します。この科目は出題範囲が非常に幅広く、数多くの観光に関するテーマについてさまざまな角度からその内容を問われます。一般的な地勢はもちろん自然系の山岳、高原、川、滝、溪谷、島、海岸、半島、岬、温泉、洞窟に加え、寺社仏閣、祭事や民俗芸能等の開催地と開催月、城、古墳・遺跡、歴史の舞台、郷土料理や特産品・伝統工芸品、美術館や博物館など、試験対策として必要な内容を説明していきます。									
講義スケジュール		タイトル			内容						
	第 1 講	授業概要			授業の内容と進め方・学習方法・評価等の説明						
	第 2 講	北海道			北海道の観光地とその自然・文化資源						
	第 3 講	北東北地方			青森県・秋田県・岩手県・宮城県						
	第 4 講	南東北～関東地方			山形県・福島県・群馬県・栃木県						
	第 5 講	関東地方			茨城県・千葉県・埼玉県・東京都・神奈川県						
	第 6 講	中部地方Ⅰ（北陸・越後）			新潟県・富山県・石川県・福井県						
	第 7 講	中部地方Ⅱ（甲信・飛騨美濃）			岐阜県・長野県・山梨県						
	第 8 講	中部～近畿地方（東海・伊勢志摩）			静岡県・愛知県・三重県						
	第 9 講	近畿地方Ⅰ			和歌山県・奈良県・滋賀県						
	第10講	近畿地方Ⅱ			京都府・大阪府・兵庫県						
	第11講	中国地方			鳥取県・島根県・山口県・岡山県・広島県						
	第12講	四国地方			徳島県・香川県・愛媛県・高知県						
	第13講	北九州地方			福岡県・佐賀県・長崎県						
	第14講	南九州地方			熊本県・大分県・宮崎県						
	第15講	南九州～沖縄			鹿児島県・沖縄県						
指導方法		47 都道府県の出題範囲を全て説明していきますので、講義が中心になります。膨大な量を限られた時間内で終了させる必要があるため、1 回の授業で 3～4 県進みます。ペースが速いと感じられると思いますが、頑張ってください。要領よく重要なポイントをまとめていくように指導します。									
事前学習		各回に予定されている地域・都市などの位置関係等を地図帳で理解しておくことです。毎日少しずつ（例 15 分×6 日間のように合計 1 時間 30 分程度）継続することが効果的です。									
事後学習		復習は必ず必要で、練習問題に取り組み、誤った箇所についても確実に覚えます。地理が苦手な人は、白地図の記入をしてください。毎日少しずつ合計で、最低でも 1 時間 30 分程度は必要です。									
成績評価方法		「小テスト第 3 講～第 14 講（全 12 回）各 5 点×12 回」（60％） 小テスト実施日に欠席した場合、小テストの追再試験はありません。「本試験（筆記試験）」（40％）									
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法				毎授業時に実施する小テストを返却します。							
テキスト		『旅に出たくなる地図 日本』（株）帝国書院 『観光地理・観光文化資源』オリジナルテキスト									
参考文献											
実務家教員による授業			教 員 経 歴								
特記事項		国家試験の受験希望者は藤野先生の「観光地理」も履修することをおすすめします。									

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
112BK07		観光地理		日本の観光地と観光資源	藤野 俊和	1 年次前期	2
科目区分	専 門	キーワード		観光地・温泉・自然景観・都市・特産物			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			特になし				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	日本には多くの観光地や観光資源が存在する。観光地や観光資源を適正に管理・運営していくためにも、観光地や観光資源が国内の「どこ」にあるのかを理解する必要がある。本講義では、日本の観光地や観光資源について学び、知識を深めることを目的とする。これらの知識をもとに、自分自身で旅行先を柔軟にプランニングすることも重要である。本講義は旅行業務取扱管理者資格の「国内旅行実務」の受験対策としても位置づけられている。同資格の取得希望者は「観光文化資源論」も履修することをおすすめる。						
到達目標	本講義の到達目標は、日本各地の観光地・観光資源とそれらの位置関係を理解することである。						
講義内容	日本の 47 都道府県にある温泉、自然景観（山岳、河川、溪谷・峡谷、湖沼、島、岬、半島など）および都市・施設（庭園、神社、城郭、美術館、史跡など）などの観光資源を対象に、それらの位置関係を説明する。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第 1 講	授業概要、北海道 1			授業の内容と進め方の説明、北海道南部（道南）		
	第 2 講	北海道 2、東北 1			北海道中央・東部（道央・道東）・青森県・岩手県		
	第 3 講	東北 2			宮城県・秋田県・山形県・福島県		
	第 4 講	関東 1			茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県		
	第 5 講	関東 2			千葉県・東京都・神奈川県・山梨県		
	第 6 講	北陸			新潟県・富山県・石川県・福井県		
	第 7 講	中部			長野県・岐阜県		
	第 8 講	東海、近畿 1			静岡県・愛知県・三重県・滋賀県		
	第 9 講	近畿 2			京都府・大阪府・兵庫県		
	第10講	近畿 3、中国 1			奈良県・和歌山県・鳥取県		
	第11講	中国 2			島根県・岡山県・広島県・山口県		
	第12講	四国			徳島県・香川県・愛媛県・高知県		
	第13講	九州 1			福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県		
	第14講	九州 2、沖縄			大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県		
	第15講	まとめと復習			全体の復習		
指導方法	47 都道府県の観光資源を説明するので、講義が中心である。観光資源を地図上に記入確認することにより知識の定着を図る。授業の資料は適宜配布する。						
事前学習	授業前の事前学習として、各回に予定されている地方・地域の観光資源について、その位置関係を地図帳などで確認理解し、授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。						
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した観光資源ならびにその位置関係について、授業時に作成した地図などをもとに復習し知識の定着を図る。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。						
成績評価方法	「本試験（筆記試験）」（60%）、「平常点（授業内課題）」（40%）						
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法		必要に応じて授業等で解説などを行うことがある。					
テキスト	指定なし						
参考文献	旅に出たくなる地図 日本、帝国書院、2024 年						
実務家教員による授業		教 員 経 歴					
特記事項							

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BK08		ホスピタリティ論		ホスピタリティの理解と実践研究	長橋 士席	2 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		概念・歴史,サービスとホスピタリティ,産業事例,ホスピタリティ・マネジメント,接遇コミュニケーション			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			観光学概論 A/B、旅行実務論など				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	ホスピタリティの概念と各産業の事例を学び、考え方や行動、就業時の実践に落とし込んでいけるよう、深くそして広く理解していくことを本講義の目的とします。						
到達目標	ホスピタリティを広く深く理解し、自身に置き換えた考えや行動に落とし込み、就業後の自身のキャリアにも繋げて考えられることを、本科目の到達目標と致します。						
講義内容	1. ホスピタリティの概念、理論を歴史観とともに解説していきます。 2. ホスピタリティの事例研究として、業界別に事例を紹介・解説していきます。 3. ホスピタリティの実践事例として、企業や地域の実践例を紹介・解説していきます。 4. ホスピタリティの実践として、接遇コミュニケーションの知識・スキルの基礎を伝えます。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第1講	講義ガイダンス			講義概要・運営方法の説明、講師自己紹介(職歴紹介)		
	第2講	ホスピタリティ概論(1)			ホスピタリティとは（歴史と発展）、ホスピタリティ産業		
	第3講	ホスピタリティ概論(2)			定義、サービスとホスピタリティ		
	第4講	産業別ホスピタリティ(1)			産業別研究(宿泊事業 / 飲食サービス事業)		
	第5講	産業別ホスピタリティ(2)			産業別研究(テーマパーク・レジャー事業)		
	第6講	産業別ホスピタリティ(3)			産業別研究(航空事業 / クルーズ事業)		
	第7講	産業別ホスピタリティ(4)			産業別研究(鉄道事業)		
	第8講	企業ホスピタリティ			企業事例紹介・研究		
	第9講	地域ホスピタリティ			地域事例紹介・研究		
	第10講	マネジメント(1)			ホスピタリティ・マネジメント(CS と ES、ロイヤルティ)		
	第11講	マネジメント(2)			〃 (モチベーション、エンパワーメント)		
	第12講	マネジメント(3)			〃 (クレーム・コンプレイン対応)		
	第13講	接遇コミュニケーション(1)			ホスピタリティ精神		
	第14講	接遇コミュニケーション(2)			コミュニケーションスキル		
第15講	科目まとめ			科目まとめ 試験概要の説明			
指導方法		原則、講義形式・座学型の授業運営となります。学生からの積極的な発言・参加者同士の意見交換や受講後のリアクションペーパーなどで理解の確認や深まりを促し、授業へ積極的に参加をして頂きます。					
事前学習		生活の様々な場面における接客・接遇に対して、ホスピタリティを意識して体感し授業内容と関連させていって下さい。関連の時事的なニュースからも考え、興味・関心を持って授業に臨んで下さい。					
事後学習		受講内容を参考図書・文献などでさらに調べて考察し、自身の知識や考え方をまとめ、理解を深めていきホスピタリティの醸成に繋げていって下さい。適宜、授業課題を提出して頂きます。					
成績評価方法		本試験(レポート)」(60%)、「平常点(授業内課題(リアクションシートなど))」(20%)、「平常点(発表・発言、授業参加度・受講態度)」(20%)					
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法		授業内での解説、および Google Classroom およびフォームを使用し、コメント・採点。					
テキスト		指定なし。必要に応じ、講義時にレジュメ・資料等を配布					
参考文献		サービス&ホスピタリティマネジメント」徳江順一郎 編著 産業能率大学出版部 2011 年 「ホスピタリティ産業論」飯島 好彦 他 著 創成社 2021 年、その他、講義内で紹介					
実務家教員による授業	○	教 員 経 歴	1991 年~2012 年 ホテル・客船企業にて従事。その後、運営コンサルタントとして独立。				
特記事項							

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BK09		観光事業論		観光産業の現状と展望を学ぶ	太田 実	2 年次後期	2
科目区分	専 門	キーワード		観光事業 交通産業 旅行産業			
ディプロマポリシーとの対応				2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力			
カリキュラムポリシーとの対応				1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける			
事前に受講するとい科目				観光学概論 AB、観光関係法規、旅行実務論、観光文化資源論、観光地理			
オフィスアワー				授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。			
教員への連絡方法				教員の短大メールアドレス			
講義の目的	本講義の目的は、旅行業の概要やその商品特性、現代社会における機能や役割を習得することである。本講義で、その基礎となる観光に関わる基礎知識、および、主要産業の概要やその商品特性、現代社会における機能や役割を習得できる。						
到達目標	本講義の目標は、漠然と使用されている「観光」とは何かについて習得すること、ならびに、旅行業を中心とした観光産業の概要やその商品特性、現代社会における機能や役割を習得することである。						
講義内容	観光産業を支えてきたのは、航空、鉄道などの運輸業や、ホテルなどの宿泊業、旅行業などである。本講義では、前半部分で観光に関する基礎的な知識を学習し、後半部で各種観光産業の概要やその商品特性、現代社会における機能や役割を学習する。この授業を通して、観光サービス提供者の役割のみならず、よき旅行者としての行動も合わせて学ぶ。						
講義スケジュール		タイトル			内容		
	第1 講	観光事業の概要			ガイダンス、及び観光事業の概要の説明。		
	第2 講	観光とは			「観光」および「旅行」の定義を理解する。		
	第3 講	海外の観光史			古代・中世・近世の観光の成立過程を理解する。		
	第4 講	日本の観光史			中世までの旅、江戸時代の旅を理解する。		
	第5 講	観光政策の具体例			インバウンド旅行の促進を考察する。		
	第6 講	観光と環境			観光と自然環境の保護・保全等について考察する。		
	第7 講	観光と教育			福祉：観光教育と教育観光について考察する。		
	第8 講	前半部分のまとめ			前半部分のまとめと授業内確認テストを行う。		
	第9 講	交通業			交通業の発展史、及び近年の動向について概説する。		
	第10講	宿泊業			現代ホテルの経営方式等について把握する。		
	第11講	旅行業 1			旅行業の成立経緯、旅行業の業務内容等について考察する。		
	第12講	旅行業 2			旅行業の職種を学ぶ。		
	第13講	ツアーコンダクター			ツアーコンダクターの機能と役割について考察する。		
	第14講	テーマパーク			テーマパークの発展過程等、概要を把握する。		
第15講	まとめ			これからの観光産業の活性化について論じる。			
指導方法		テキストを中心に、適宜プリントを配布して講義を進める。時間内において、随時ミニテスト、ミニレポートを課す。					
事前学習		授業前の事前学習として、各回のテキスト該当ページを一読し、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
事後学習		授業後の事後学習として、授業時に学習した以外の事例について参考文献を調べ、自分で考察をまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。1 時間 30 分程度の学習時間が目安である。					
成績評価方法		平常点（授業内テスト・レポート）50%、本試験（筆記試験）50%とする。ただし、出席が 2/3 以上でない場合は評価の対象にはならない。					
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法			授業の冒頭で前回課題の解説をする。				
テキスト		前田勇編著「新現代観光総論 第3 版」学文社 2019 年					
参考文献		授業中に適宜指示する。					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項							

ナンバリング		科目名		サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
212BK10		観光社会学		観光についての批判的まなざしを育む	濱 雄亮	2 年次前期	2
科目区分	専 門	キーワード		社会学・相対化・伝統の創造・ポストモダン・格差・メディア（化）			
ディプロマポリシーとの対応			2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応			1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目			観光学概論、観光関係法規、旅行実務論、観光地理、観光文化資源論				
オフィスアワー			授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法			教員の短大メールアドレス				
講義の目的	「観光」について、主に社会学（部分的に文化人類学・民俗学など）の知見に基づいて批判的に理解することを目的とします。「* * という観光が良いのだ／悪いのだ」という常識的なものの見方がどのようにして生まれるのか、その背景にある問題は何かなどを探ります。卒業論文で観光をテーマにする予定の人に、観光を分析する学問的視点を提供します。						
到達目標	経済的価値や娯楽的価値などに基づいた常識的なものの見方を離れて、経済的価値や娯楽的価値の枠組自体を分析対象として意識できること。具体的な観光現象について、学問的・批判的に簡単な分析ができること。						
講義内容	観光現象の歴史の紹介、観光社会学のキーワード・理論の紹介（なるべく具体例に基づく）、観光地のあり方についての観光社会学的分析例の紹介、観光現象の現代的展開と課題の紹介という流れです。予備知識はとくに必要ありません。以下の「内容」欄のキーワードは特殊なものばかりなので、知らなくても全く問題はありません。						
講義スケジュール		タイトル		内容			
	第 1 講	観光社会学とは？		観光社会学という領域の特徴・歴史			
	第 2 講	観光の歴史(1)		日本における観光の歴史			
	第 3 講	観光の歴史(2)		欧米などにおける観光の歴史			
	第 4 講	観光社会学のキーワード(1)		ホスト／ゲスト、フォークロリズム、真正性、伝統の創造			
	第 5 講	観光社会学のキーワード(2)		疑似イベント、文化の客体化、本質主義と構築主義			
	第 6 講	観光社会学のキーワード(3)		ディズニーランド化、ポストコロニアル、ポストモダン			
	第 7 講	観光社会学のキーワード(4)		マンガ・アニメの聖地巡礼（鷲宮・秋葉原など）、モビリティ			
	第 8 講	観光地の社会学的分析(1)		文献調査・現地調査の方法、日本イメージとガイドブック			
	第 9 講	観光地の社会学的分析(2)		ふるさと・古代イメージと観光（遠野・奈良など）			
	第10講	観光地の社会学的分析(3)		観光化に伴う祭りの変化、被災地ダークツーリズム（東北）			
	第11講	観光地の社会学的分析(4)		南・東南アジアにおけるエスニック・ツーリズム			
	第12講	観光地の社会学的分析(5)		日本におけるハワイの位置づけの変遷			
	第13講	観光の現代的展開と課題(1)		メディカル・ツーリズム、福祉と観光、感染症と観光			
	第14講	観光の現代的展開と課題(2)		メディア・SNS と観光、観光従業員の感情労働、自分探しの旅			
第15講	観光の現代的展開と課題(3)・総括		近代化・メディア化と観光現象の相互影響関係など				
指導方法		講義形式です。動画・写真・映画も用います。「* * と聞いて思いつくこと」などをその場で聞きその答えを即興で講義に生かすこともあります。毎回、感想・意見記入などの授業内課題を課します。					
事前学習		シラバスに挙げられている項目について事典・書籍・信頼できるウェブサイトによって概要を調べて下さい。自分や家族の経験を振り返ることも有用です。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。					
事後学習		授業中に紹介した書籍や配布物の読解や、関連映像の視聴をして下さい。心理的に支障のない範囲で自分の観光経験を振り返ることも有益です。1 時間 30 分程度の学習時間が目安です。					
成績評価方法		平常点（授業内課題）：60%、本試験（レポート）：40%。					
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法			授業内課題は原則として次の授業時に解説・補足説明を行います。				
テキスト		用いません。紙や pdf の資料を教室や classroom 上で配付します。					
参考文献		市野澤 2022『基本概念から学ぶ観光人類学』ナカニシヤ出版、岡本 2015『聖地巡礼』中央公論新社、須藤ほか 2018『観光社会学 2.0』福村出版、安村ほか 2011『よくわかる観光社会学』ミネルヴァ書房、など					
実務家教員による授業			教 員 経 歴				
特記事項		観光業の潮流の変化やこの分野の研究の進展によって、順番や内容を一部変更する場合があります。					